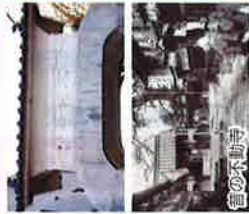


歴史的資源

番号は裏面の地図上の番号に対応しています

①不動寺

このあたりは四日市港の中心であり、竜の形をした松に灯明をつけて灯台代わりにした電灯松は、港の目印でした。寛永16年(1639)、揖斐川で大洪水があり、美濃国高須にある観音寺から「不動明王」の某の漁網にかかりました。この地に縁のある御仏だと竜と電灯松の下に御堂を建立し、祀ったのがはじまりだと言われています。



②思案橋

徳川家康が本能寺の変を聞き、三河へ帰国する時、海路にするか陸路にするか思案に暮れたという故事から、この橋の名がつけられたと言われています。昔は思案橋の近くに四日市湊がありました。



●潮呼橋跡

運河に架かっていた橋跡の記念碑です。この辺りの船運まわりは、潮潮を待つて群(ししけ)が入り荷揚げをしていたことから、この橋の名が付けられたと伝えられています。



③蔵町通り

蔵町は納屋地区でも最も古く、最初に発展した町です。現在の蔵町は、なやプラザ(旧納屋小学校)の周りを囲むようにありますが、江戸時代初期には思案橋から港に続く通りの両側に蔵が建ち並び、町を形成していました。昔の写真では、手前に丸鬼肥料店・奥には四日市銀行が見えます。



⑤開栄橋

相生橋の北に位置し、納屋運河に架かる開栄橋は旧蔵町と稲葉町を繋ぎ、思案橋に続く歴史ある橋です。昔の写真では橋を渡った左手に四日市郵便局があり、半鐘の駒には浜往還の松がみえます。



⑥納屋運河

昔の写真の対岸の白亜の洋館は四日市郵便局で、右奥には開栄橋、その向こうには倉庫がありました。



四日市旧港まちあるきMAP

発行: 四日市港まちあるき実行委員会

文化的資源

●すわ公園交遊館(旧四日市市立図書館)

昭和天皇の即位を祝う御大典記念事業として、稲澤一衛氏が昭和4年(1929)に建設し、図書2,000冊とともに四日市市に寄贈した図書館です。稲沢氏は伊勢電気鉄道の社長や四日市銀行頭取などを務めた四日市を代表する事業家でした。太平洋戦争末期に空襲による負傷者の収容施設に使用されたこともありましたが、昭和24年(1949)に再び図書館として復活し、昭和48年(1973)に新図書館が完成すると一時空家となりましたが、昭和51年(1976)から児童福祉施設「こどもの家」となり、平成15年(2003)からは、すわ公園交遊館として今日に至っています。



⑩ボードウォークと壁面

約100メートルほどのボードウォークから様々な船を眺めることができ、壁面は地元高校生の手により平成8年(1996)4月に完成しました。



⑪鯨船明神丸山車

全長約8メートル、幅約2メートルの船型の山車で、屋形をもち、各所を金魚張の彫刻と幕で飾り、船首部には大型の水押しと金米の下かりを持つ、豪華な意匠の山車です。



※山車蔵のため普段は山車を見学することはできません

●なやプラザ

廃校となった納屋小学校の建物を利用して、市民活動・生涯学習のための拠点施設として整備されました。



⑭倉庫群

千歳運河沿いには物流を象徴する倉庫群が建ち並んでいます。



⑬旧四日市港管理組合庁舎

平成11年(1999)に四日市港ポートビルがオープンするまで四日市港管理組合庁舎として機能していました。



⑬臨港橋

米田町・千歳町間の千歳運河に架けられた可動橋(跳ね上げ橋)です。船舶が通るときは遮断機で車の通行を止め、中央部の橋桁を約70度押し上げて開きます。初代は昭和7年(1932)に竣工しました。現在の橋は平成3年(1991)11月に完成した3代目です。



自然的資源

④北納屋公園

納屋運河を埋め立てて整備され、公園の南東部には船を停泊させる金具が残っており、運河の面影を感じることが出来ます。



⑫プロムナード

高潮護岸の防壁前面平場を利用してカラー舗装化や安全柵、照明灯の設置を行い、旧港から千歳橋までの遊歩道として平成3年(1991)に整備されました。旧港を眺めながら散歩することが出来ます。



⑩波止改築記念碑と

⑪稲葉三右衛門君彰功碑

波止改築記念碑は、防波堤改築を記念して明治27年(1894)年に作られた碑です。稲葉三右衛門君彰功碑は、明治30年(1897)に建てられた顕彰碑です。これらは潮吹き防波堤とともに国の重要文化財に指定されています。



⑬千歳橋

大正15年(1926)に完成した、尾上町と千歳橋(二号地)を結ぶ千歳橋は、昔は橋脚の本数が多く、オプジーエもありました。(四日市市立博物館提供)



⑮稲葉翁銅像

昭和2年(1927)、市制30周年記念事業として、近代港灣の基礎を築いた6代目稲葉三右衛門の銅像がつけられました。当時の像は戦時中の金属供出によって失われ、現存は昭和30年につくられた2代目です。



●大入道山車

首を伸長した時の高さが約7.6mに及び、わが国最大のかくり人形大入道の山車です。演技時には銅鑼と太鼓のリズムに合わせて首を長く伸ばし、首をたぐって舌を伸ばして目を見向き、両手を前後に大きく振りまわす。もともとは諏訪神社の例祭である「四日市祭」に桶の町のだじものとして登場しました。桶の町は当時海岸に面した蔵の多い所で、埋め立てたたび人を驚かせたので、これを鎮めるために「大入道」を制作したと言われています。



※山車蔵のため普段は山車を見学することはできません

●菅公山車

菅公山車は、菅原道真の前で文字を書くこどもを表したものです。実際に人形が文字を書くところが特徴です。こどもが顔に文字を書き、それを道真公に見せると褒められ、こどもたちは喜び、踊っていました。



※山車蔵のため普段は山車を見学することはできません

⑮本町プラザ

市民交流会館、男女共同参画センター、環境学習センターなどが集約した複合施設です。1階には、岩戸山山車と昔の写真が展示されています。



岩戸山山車

天宇受賣命(アマノウズメ、日本神話に登場する女神)に化けていた狸が正体を現し、腰鼓を打ちながら雲丸が影れだすというユニークなくり人形山車です。初代は幕末から明治にかけて作られたとされ、大入道と同じ人形師の作と言われています。

産業的資源

⑬末広橋梁

千歳運河にかかる現役唯一の跳開式可動鉄道橋梁です。昭和6年(1931)に竣工しました。全長58メートルのうち中央部16メートルの橋桁が80度ほど跳ね上がります。平成10年(1998)に国の重要文化財に指定されました。



⑮本町通り商店街

現在、通りの両側のアーケードには軍海道五十三次の各宿場の浮世絵がかけられています。



⑮みなと公園

四季を通じて市民に親しむと与え、物流と市民を強力分離することを目的として整備され、オーストリア製レンガ舗装による園路、噴水やベンチ、トイレが設置されています。



⑮納屋防災緑地

幅約50m、全長約300mの南北に細長い防災緑地で、自然豊かなオープンスペースで、遊具なども整備されています。



【参考文献】 四日市港管理組合「四日市港開港百年史」(2000)、四日市市立博物館「ふるさと」(1997)、四日市市立博物館「海と港の博物館」(1999)、尾山海監修「目で見る四日市の100年」(名古屋郷土出版社、1990)、四日市商工業振興所「目で見る四日市の100年」(名古屋郷土出版社、1993)、四日市市ホームページ